



「アバンツァーレOB会」ついに発足！
みんないつでもアバンに帰ってきてね。



特別
アバンがわらばん
ジュニアユース



アバンの懐かしい顔が一同に集結！

ジュニアユースOBに限らず、アバンジュニア出身のOBも多数集結。今回は高校3年生～1年生のOBの面々が集まりました。ただ所属チームは様々です。仙台一、城南、東北、聖知、仙台東、仙台西、仙台南、県工、育英、利府、仙台高、学院、学院柳ヶ岡、明成、向山、泉松陵、名取北、ペガルトユース、塩釜ユースなどなど。列々の道を歩く彼らが本当に楽しそうにボールをけているのです。それは不思議で感動的な光景でした。またケガでプレーできないのに関わらず、わざわざ顔を見せに来てくれた選手もいました。今回、所属チームの活動等でどうしても参加できなかった選手は、列の日に会いに来てくれたり、電話をくれたりしました。最近コーチが饒んだ本の、ある指導者の言葉が強く心を打ちました。それは、OBに誇りたい言葉であると同時に、自分自身にも勇気を与える言葉でした。

アバンツァーレOB会受付！

「アバンツァーレOB会」を発足します。

参加資格：アバンツァーレ会員OB（スクール生、選手コース問わず）
参加方法：名前 住所 メールアドレスをお知らせください。その情報を元にOB会開催の連絡をします。

活動内容：不定期にOB会を行います。基本的には集まったOBでサッカーを楽しむ会です。下記アドレス、またはアバン事務局、または源晴コーチの携帯まで連絡下さい。また、機会がありましたら、できるだけ多くのアバンOBの皆さんに声がけて下さい。

090-4550-6394 ohganeku@avanzare-sc.com

遊びに来る時は事前に連絡をよこすこと。



ジュニアユース一期生の三浦結太くん（現大学1年生）がある日、遊びに来てくれました。その日に母義にもおれのメールが。練習の最後にも「守備」や「声」について、現アバン選手にアドバイスを与えていましたが、コーチは彼の成長を喜びと共に、「アバンの現役時代に自分ができていないだろ」と心の中でつつこみを入れていました（^^）

今日はアバンの練習に参加させていただきありがとうございます。最初は遊びくらいの気持ちでしたが、みんなの熱に感化され自分も夢中になって練習していました。昔と変わらず楽しく、質の高い練習で自分の練習にもなりました。改めて自分のサッカーの原点はアバンにあるなと感じました。個人的な感想としては足元の技術の高さに驚かされました。ただ少し練習中の声が少ないかなと思いました。もっと元氣よく声を出して練習することで質も高くなり、雰囲気も良くなると思います。短い時間で貴重な練習なので大切にしてもらいたいです。もっともっと上を目指して頑張ってください。自分もかわ版などでみんなの活躍をチェックしたいと思います。また帰省した際は顔を出したいと思うのでよろしくお願い致します。

OBからのお手紙 パート1

源晴コーチへ。まずはこんな紙ですみません。色々感謝の気持ちを伝えられていないと思うので手紙で感謝の気持ちを述べたいと思います。小学生のとき、アバンでコーチにはサッカーだけでなく、社会のルールなど、色々なことを教えて下さいました。楽しかったこと、悲しかったこと、試合負けて一緒に泣いてくださったこと、叱られたり、本当にたくさんの思い出があります。リフティングができない自分に、コーチがわざわざ自分の家の近くの公園に来て、一緒に練習してくださったり、ケガをした時には心配して家に来てくださったことなど、本当にお世話になりました。そして本当に楽しかったです。ここまで自分のためにしてくれるコーチは他にいないと思います。この思い出は宝物であり、一生大事にしていきたいと思っています。

後悔が一つだけあります。それは高校でサッカーを続けなかったことです。春から練習に参加していたのですが、何かこのまま部活を続けていたらサッカーを嫌いになりそうなのでやめました。自分の心の弱さはもちろんのことなのですが、源晴コーチのような頼れる存在がいたら何か変わっていたかもしれないです。源晴コーチ、自分の事を忘れないで下さいね！！本当にお疲れ様でした！！本当にありがとうございます。沖縄でまた頑張ってください！！

今度ご飯も連れてってください。大学は芝浦工業大学というところに進学します。



手紙には、懐かしい写真がそえられていました。この写真の中には上記の写真のOB選手がたくさんいます！みんな変わっていないです。



OBからのお手紙 パート2

最近、たくさんの人から手紙を頂いています。この時代だからこそ、手紙ってドキドキ、ワクワクします。また、メールやLINEが当たり前の今時の彼らが、わざわざ手紙を書いてくれることに感動です。

アバンツァーレジュニアユースの3期生西峰直毅です。

人に手紙をちゃんと書いたことが無いので、いろいろおかしい点はあるとは思いますが、流して読んでください(笑) まず、本当にお疲れ様でした。本当に本当にお疲れ様でした。そして感謝することが多すぎて、多分この手紙では書ききれません。自分が源晴コーチとはじめて会ったのが小学2年生の時でした。あの時は、すごくコーチという存在が怖くて怯えていました。小学3年生になってスクールから選抜にょんでいただき、リフティングテストをみてもらったのも源晴コーチでした。覚えていますが、最初のテストで百回でなく「来月またチャンスをあげるから」と言われ、必死に練習したのを今でも覚えています。その後、選手コースの方にまじっても、源晴コーチはずっと怖かったです(笑)でもそれはプレー(サッカー)の面だけではなく、礼儀や私生活などの面でも指導していただいたため、今の自分の土台はアバンでできたものだと考えています。小学校の全少が終わったあと、源晴コーチが俺らの前で大泣きしてくれましたよ。『自分の力不足で全国に行けなかった』と書いてくれましたね。あの時の場面は今でもふと思い出す時があります。すごく悔しかったけどうれしかったです。毎年のように行っていたJヴィレッジも、東日本大震災のため使えなくなり、源晴コーチとの思い出の場所が減り、とても悲しく思っています。あの場所で共に汗を流し、おもちゃを食べました。今、思い返せば、全てが宝物です。源晴コーチは本当にいいコーチでした。そして、これからいいコーチでありつづけてください。自分は源晴コーチのことが大好きです。多分誰よりも大好きで、誰よりも誇れる恩師です。誰よりも俺のことを理解してくれて、常に一生懸命で、自分の身を削ってでもチームのためにしてくれていました。あの時はその事に気づけていませんでした。でも高校に入ってから痛くほど分かります。俺がサッカーをここまで好きになったのも、アバンを大好きになったのも、礼儀をしっかりとできるようになったのも、全部全部全部源晴コーチのおかげです。本当は沖縄に帰らないでもらいたいです。ずっと近くで見てもらいたいです。もっとコーチとくだらない話がしたいです。宮城にいてくれませんか？無理ですよ。でもずっと源晴コーチは俺の自慢のコーチで、一人の男、一人の人間として尊敬します。電話でも言いましたが、自分に子どもができたなら源晴コーチのもとでサッカーをやらせたいです。本気で。その時はゆっくりお話ししましょうね。改めて本当にお疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。しつこくして申し訳ないのですが、俺は源晴コーチが大好きです。源晴コーチのやり方ならどこに行ってもスーパースターを育てられると信じています。本当にありがとうございました。P.S. ぜんぜん書き足りないです。しかももっと感動させたかったのに、文面バラバラだし、けっこう養っています(笑)二十歳になったら沖縄でお酒飲みましょうね。



源晴コーチもアバンを卒業。

今更ながら、源晴コーチはこの度、アバンを卒業する事になりました。4月には、地元沖縄に帰ってしまいます(_ _) 段階的に、関係者に知らせていったつもりですが、結局、最後はバタバタしてしまったかなと。この場をかりて失礼をお詫びします。

OB会の日、たくさんのサプライズありがとうございました。中でもOBを中心にたくさんのアバン選手の名前が書かれたフラッグはいいね。名前を見るだけでその子とのかけがえのない思い出がよみがえってきます。もしまだ書いてくれる子がいるなら、ぜひ書きに来てください。4月中旬くらいまで仙台をウロウロしています(^o^)



アバン歴代選手の名がずらり。

親御さんからの心温まるメール

源晴コーチ。もしかしてご挨拶できるといいなあと、今日の夕方事務局をお訪ねしましたが、茨城に遠征中とのことでした。最後の最後までお疲れさまでした。本人も言っていました、響は源晴コーチに会えたからSCで本気でサッカーを始めました。ものすごく泣き虫だったので、泣きながらでも、源晴コーチがいたからずっとサッカーをして、源晴コーチがいたから迷わずアバンのジュニアユースに進みました。『サッカーは楽しい』ということをお話していただき、しあわせでした。こんな出会い、人生であまりないほどの、響にとっては奇跡だと思います。ありがとうございました。北中山杯、最後にあんなに楽しいオマケがあるとはまったく知りませんでした。思いっきり自由に、好きなように、仲間と楽しむサッカーをしている姿、見ている親にとっても感動でした。ずっと源晴コーチがいっぱい仕事をしていてから、心配でした。沖縄ではもう少し人間らしく(笑)、沖縄らしく、働いてください。どの年代もそうなのかもしれませんが、ジュニアの頃には大人も絡んでなんだからいろいろあったし、コーチにもたくさんご苦労おかけしたと思います。それから大事故は強烈な記憶で、私は今も日付を覚えてます。本当に大変なできごとでしたし、今も終わっていないことと思いますが、よくぞ戻ってくださいました。でも体のことはご自身にしか分からないことが多から、どうかお大事になさってください。私の車は西中田グラウンドのまん前に駐車場があって、出入りするときにアバンくんがサッカーしているの嬉しくなります。これからも、ちびっこたちを見ながらニヤニヤしたいと思います。お元気で。たまに帰ってきてください。 嶋岡 彰

最後の最後のエピソード。

ディズニーランドにアバンジュニアユース一期生キャプテンが！彼は現在、東京の大学に通いながらディズニーでバイトしています。この前、彼の働く姿をのぞくことができました。彼は笑顔で、一生懸命接客をしていました。バイトが終わった後、たくさん話することができました。さりげなくアトラクションが見やすい場所を譲ってくれたり、会話の内容も...、大人になったなとしみじみ思いました。先に紹介した「自分の選択の正しさは自分自身で証明していくしかない」という話題になった時、彼はこう言いました。『大学は第一志望校ではなかったけれど、後悔はしていません。それはそれでこういう仕事を経験できたり、良い出会いがある。今は、自分の選択の正しさを自分自身で証明しているところです。』

最後にもう一つエピソード。先日、ある選手の中学校の卒業式の話です。式では各々の生徒が親へ手紙を贈るようになっていました。その子の手紙の一行目には「僕をアバンに入れたことにありがとう」と書いてあったそうです。その子のお母様も『学校での手紙の一行目にそう書き出すなんて、あの子にとって中学生生活はアバンそのものだったんですね』と笑っていました。思い返せば当時、彼にはいくつかの選択肢がありました。悩んだこともあったかもしれませんが、ただ彼はいつもニコニコとサッカーを楽しみながらプレーしていました。彼がアバンを選択したことがベストだったのかどうかは誰にも分かりませんが、彼は自分で選択した道の正しさを自分自身で証明したのです。



アバンのちびっこ達！ 未来のアバンをよろしく お願いします(_ _)

ちびっこ達とお別れは切ないです(T.T) サッカーを続けていればいつかまた会えるよ。たくさんのお手紙ありがとう。未来のスター選手。陽太くんのお手紙を紹介します。



げんせいコーチへ
いつもぼくにやさしくしてくれてありがとうございました。ぼくのいちばんのおもいでがSCアバンカップのとき、げんせいコーチにあどばいすをされました。そのおかげできもちがよくなりました。こんどはげんせいコーチがいなくなってしまうけど、しあいのときはばいばんで点をきめれるようにがんばります。いつかぼくもおじいちゃんにいつげんせいコーチにあいにいきます。陽太より

